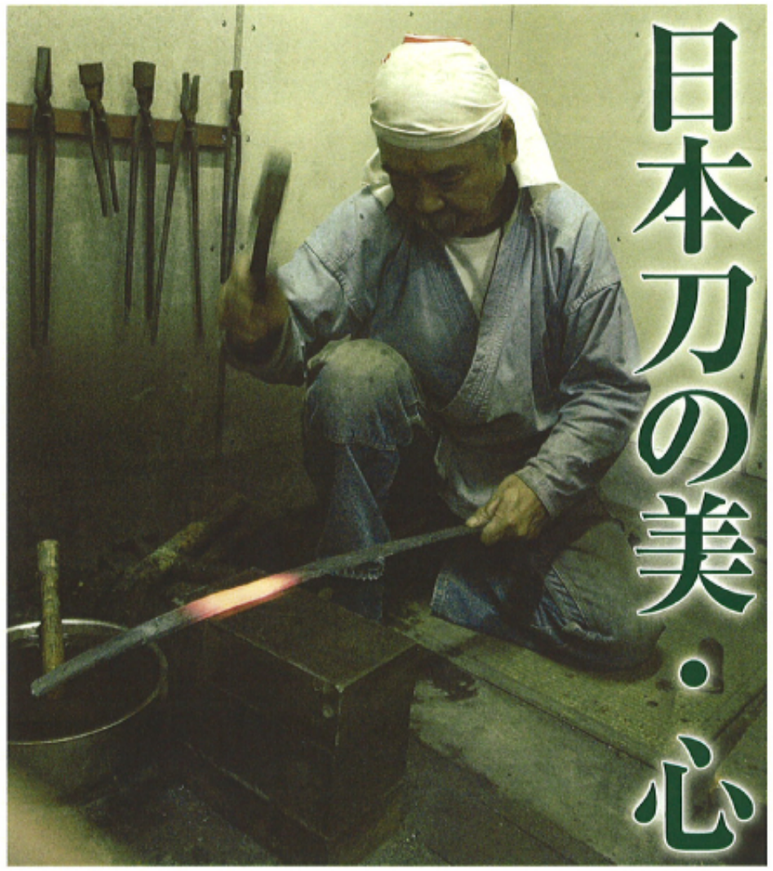
炎をあやつり 魂を込めて打ち出す・心・技

日本刀の美



火と対話しながら刀鍛冶は『鉄』に魂を注入していく。妖艶な光沢、色、凄みは、その『技と精神』の継承から生み出される。

ピストルの弾をまっぷたつに切り裂いた！

ダーン。

垂直に固定された日本刀の刃に向けて発射されたコルト45の弾丸は刃身の中央部に当たり、まっぷたつに引き裂かれて左右に散った。日本刀には刃こぼれひとつなく、弾が当たった部分に、鉛の痕跡がわずかに残っただけだった。

フジテレビの「トリビアの泉」で放映された「日本刀VSピストルの真剣勝負」の衝撃映像だ。超高感度カメラがとらえた決定的瞬間は、日本刀がもつ凄みをあらためて、強烈に印象づけた。この戦いは、鍛えた炭素鋼の強さを証明した戦いといえる。

この真剣勝負に使われた日本刀を製作したのが刀匠、小田久山である。

アメリカンドリームを掴んだ久山

久山は、子どものころから鉄に対して異常なほど関心が強く、機械工への道を選んだ。やがて高い技術をもとに刃物の熱処理の会社を興し、大成功を収めたが、自分の技術がどれだけ世界に通用するのか知りたくなり、32歳で会社をたたみ渡米する。

ナイフビルダーの世界に身を投じるが、卓抜した技術とセンスで、あっという間に頭角を現す。全米各地で開催されるショーに出品すると作品の技のグレートと品格がたちまち評判を呼び、KUZANブランドは、世界のナイフビルダーにとどろいていった。

カスタムナイフの神様といわれるRWラヴレスもKUZANに対しては一目置き、アドバイザリースタッフのひとりとして迎え入れ、寝食を共にし、活躍を続けた。こうしてナイフビルダーの頂点を極めたKUZANには熱狂的なファンも多い。

有名俳優が、KUZANのナイフに惚れ込み、買っていくことも珍しくなかった。

●おだ くざんプロフィール
小田紘一郎。
銘一久山（KUZAN）。
昭和17年1月30日生まれ。子どものころから鉄に関心が強く機械工の道に。刃物の熱処理の会社を設立し成功。32歳の時、すべてを投げ打って渡米、ナイフビルダーの頂点を極める。和鋼の魅力にとりつかれ、51歳で帰国。刀匠に弟子入り、刀鍛冶となる。

ODA KUZAN

日本職人名工会との取り組み

職人の技文化の活性化を目的とする非営利団体。日本の製造業はすべて職人文化から発展し、大きな繁栄をもたらしてきましたが、時代が変わり、技術革新によって生活物品や手作り物は、ほとんどが成型物にとって代わってしまいました。このような時代に技を磨き、名を馳せることもなく「もの」づくりに専念する職人達がいます。『日本職人名工会』と『STEILAR C.K.M（株）ものづくり研究所』は連携し、職人の技文化を広め、日本の伝統を未来に残す活動を推進しています。

▲USA時代のナイフ。ハンドルは手に吸い付くような形状で、留め具やねじがなく、見入ってしまうほど美しい。KUZANブランドの技と品格を感じさせるナイフ。

アメリカンドリームを掴んだ久山は、1年の半分はナイフ作りに専念、残りの半分はカナダでフィッシングやハンティングに明け暮れるという、悠々自適な毎日を送っていた。

「ナイフの頂点」を捨て、新たな修行の道へ

しかし、そんなことで満足するような男ではなかった。

「鉄を極めたい」

刃物職人でありながら、「炭素鋼を語れないまずしさ」を感じていた。その気持ちは、久山の中に常にくすぶり続けていた。

日本刀は「鋼をつくる」ところから始める。日本の鍛冶の技術は他国では真似できない独自の技もあり、その質は高く世界のトップレベルと言われている。

決心をした久山は、51歳の時すべての名声を捨てて帰国。当代一の刀匠、吉原義人氏の門をたたいた。

「ナイフの道を極めた人が今から修行に入る必要はない」

と、義人氏にたしなめられたが、

「どうしても和鉄を学びたい」

と頼み、入門を許された。

日本刀は、古来より神事に用いられたり、心のよりどころとして守り刀にするなど精神的な意味合いを持ってきた。すなわち「技と精神」を継承しているのが刀匠であり、日本刀は世界に誇る代表的な冶金美術品である。

▲粗研ぎ。砥石を変え、7段階のステップを踏んで研ぐ。刀身に入ったキズやヒビは、この段階でチェックする。研ぎの技術によって、色や光沢が変幻自在に変わる。
◀素延べによって作られた刀身を火造り成形していく。炎の色を見、火と対話ができるようにならなければ一人前ではない。使用しているのは、火力が一気に上がる松炭。

6年間の修行で、久山は和鉄の技術をどん欲に吸収した。

日本刀を学んだ久山の新境地

古来より、日本にも優れたナイフはあった。しかし、現在の日本では洋ナイフが台頭し、和ナイフが影をひそめている。ナイフの本場アメリカでナイフを極めた久山が、世界に誇る日本刀の技術を生かし、「世界が認める日本ナイフ」を制作する、そのような久山の世界が見たいものだ。

和の繊細な表情や美しさを持ち、ナイフの実用性を兼ね備えた「新たな刃物の世界」がそこに広がる。

「刃物として究極を極めていくと、自ずと美しさが備わっていく。まさに日本刀と同じである」

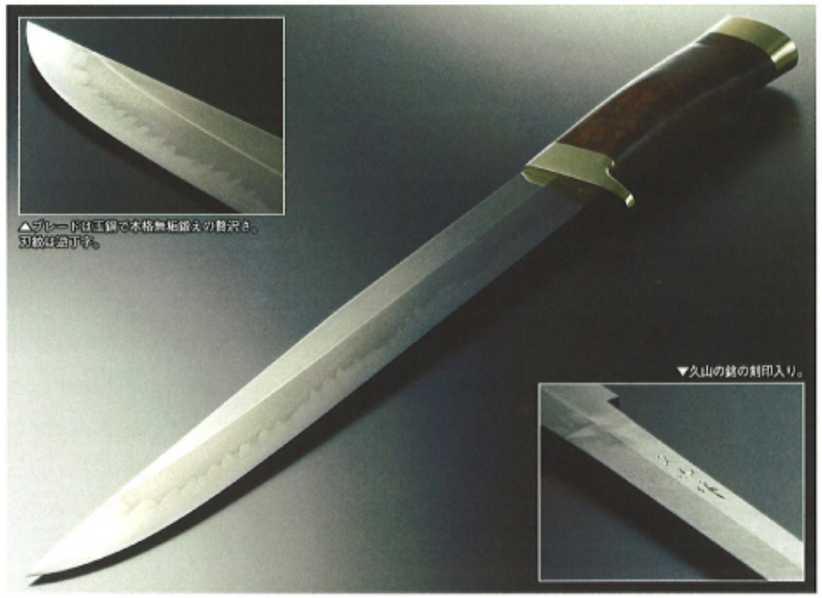
機能を追求すれば、美しさは自然に備わってくるとは、久山刀匠の哲学だ。

ナイフを極め、新たに和鉄の技術を手にいれた久山は、刃物の世界の新境地を切り開いてくれるはずだ。鉄をこよなく愛し、学び続ける久山。これからどんな作品を残してくれるのだろうか。今後の小田久山の活躍から目が離せない。

久山刀匠が贈る「世界が認めたナイフ」

和の美しさとナイフの実用性を兼ね備えた新たなる刃物

「道具の學校」のために、小田久山刀匠が特別に製作したこの作品。「鍛える」の意味を熟知した刀鍛冶の技と、ナイフの世界の技が、刃渡り22cmのなかに力強くも繊細な表情として表れている。ブレードの素材は日本刀と同じ玉鋼で、本格無垢鍛えの贅沢なつくり。刃紋は「逆一字（さかちょうじ）」。ハンドル、ケースも全て刀匠の手作りによるもの。ハンドルは花梨のこぶを削り作り上げた美しいデザイン、ケースは牛革（サドルレザー）の手縫いである。まさに和洋の刃物の技と知性が織りなす作品となった。一度は完成した作品を「どうしても気にいらない」と納得せず、新たに作り直した力作。久山の新境地、新しい刃物の世界を堪能できる逸品。



▲ブレードは玉鋼で本格無垢鍛えの贅沢さ。刃紋は逆一字。

▼久山の鍛の刻印入り。

小田久山作「久山刀　登龍」

商品番号 PP0127-17537

450,000円（税込）　返品不可

●サイズ（約）／全長34.5cm、刃長22×刃幅3×刃厚0.65cm ●重さ（約）／420g ●材質／ブレード：玉鋼（本格無垢鍛え）、ハンドル：花梨（かりん）、ケース：牛革（サドルレザー） ●日本製 ※鑑保数3 ※この商品のお支払方法は代金引換またはカードとさせていただきます。※1本1本作り上げていく為、お届けまでに2カ月以上の日数がかかる場合がございます。お届け日などについては別途ご案内いたします。※あくまでも個人の収集目的やアウトドアなどの適正な用途でご使用ください。みだりに持ち歩きますと銃刀法違反に問われる場合がございます。

告知板（当社の姿勢です）

●20歳未満の方には販売できません。●ご本人の確認（生年月日）をさせていただきます。●当人発行のカタログで取り扱うナイフ関連商品の販売はきちんとした使用目的を持っている方に限らせていただきます。